

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970600397
法人名	有限会社おいていか
事業所名	グループホーム ちゃんて
所在地	奈良県桜井市大字大福233番地の16 (電話) 0744-45-3888
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成 21年 2月 18日

【情報提供票より】平成21年2月1日現在)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.65 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	○有(150,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0 円)	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者数の概要 2月1日現在

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢	平均 85.55 歳	最低 69.0 歳	最高 96.0 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団岡田会 山の辺病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは最寄り駅に隣接した静かな住宅地の一角にあり、まわりには田園も残り季節感を感じられる。暖かく家庭的な雰囲気、職員は常に笑顔で接し利用者さん達も明るく元気で日々を送っている。ホーム便りを毎月発行し家族や地域に配布して啓発や、交流に努めている。遠方の家族にもホームの様子を伝えていく。イベントも多く企画し家族も楽しんで参加している。毎月家族にアンケートをとり家族の思いを把握し日々の生活に活かされている。職員の福利厚生については、他施設からの応援を得て職員の慰安旅行を実施し職員間の信頼関係の構築に努め開所以来職員の定着につなげている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査で指摘された記録簿の整理については職員間でいろいろと試行錯誤しながら取り組んできた。その結果、現在は情報シートを作成し、ケアマネージャーと職員の間で気づきや連絡を記入し利用者の変化に素早く対応できるようにした。個人ファイルには情報シートの他介護計画書・週間計画書・月間計画書・サービス担当者会議の記録・サマリー類・検査データ・内服データが見やすく整理され、介護計画書の作成や日々のケアに役立っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者と職員で話し合い評価の課程で気づいたことを日々のケアやサービスの向上に活用している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2、3ヶ月に1度当施設が中心となり訪問看護師、自治会長、民生委員、地域診療所看護師、地域包括支援センター、家族代表、介護支援専門員等の参加を得て開催され運営推進会議を活用し地域との交流や啓発、ケアの質の向上に取り組まれている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情受付窓口が記載されている。運営上の方針を日常的に話し合い確認しあっている。ホーム便りを毎月発行しアンケート共に送り、日ごろの生活ぶりやアンケートから意見を聞いたり、行事に参加してもらうことで交流を深めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して行事に参加したり、又ホームの行事に参加してもらったりボランティアでお花や習字等教えてもらったりしている。管理者が地域で講演活動を行いホームの啓発や介護の専門的な相談等も行われている。</p>
	<p>重点項目④</p>

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定の中に、地域社会への参加、交流を持つ事で生きがいを持ち、健康で穏やかな生活を営むことが出来、安らぎと活気につなげ穏やかな生活を援助することを謳われている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に付きやすい所に掲示し管理者、職員共に日々理念を確認し個々の性格にあわせた対応をしている。		
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会に入会し福祉祭などにも参加している。またホームの行事に地域の方や民生委員、ボランティアの方に来ていただいたりと交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘のあった記録簿の整理、活用に関して職員全員で話し合い改善に取り組んだ。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2、3ヶ月に1度開催され運営協議会を活かし地域との交流、ケアの質の向上、サービス料金の見直し等話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護課の担当者や、地域包括支援センター等と常に話し合いサービスの質の向上に向けて連携を図っている。毎月のホーム便りを送付し良い評価を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回担当の職員が家族にホームでの暮らしぶりなどを手紙に書いて送っている。一緒にホーム便り・アンケート・請求書等も送っている。また体調に変化があった時には必ず電話連絡をしている。ホームページには職員の顔がわかりやすいように写真付きで紹介し、親しみやすくしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には月1回アンケートを送り、意見をうかがっている。また苦情窓口を重要事項説明書に明記している。家族が面会に来られた時にはコミュニケーションを図り意見を受け入れ、介護や業務の改善に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はあまりないがあった場合は利用者の心境を理解し、利用者さんが混乱しないように全員でサポートしている。また、福利厚生面では、他施設からの応援を得て職員の慰安旅行に出かけ親睦を深めるなど、職員の定着に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	体制的にも研修を積極的に受ける機会が少ないのではと思われるが、年2～3回の基本的な研修は受講している。研修に参加した職員は研修資料を元に話し合いや回覧をして研修で得た知識を共有し、職員全体のレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域サービス部会の会合や、研修を通して交流や、情報交換、悩み相談等しながらサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1泊、3泊、1週間と日割りで体験利用を受け入れ本人や家族に聞き取りをして職員と話し合い、他の利用者ともその場の雰囲気に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事の好きな人には野菜や花の栽培を、調理の手伝い、年末にはしめ縄づくりを職員としながら季節感を味わいながら、日々の生活を楽しんでいる。利用者の話を聞いて生活歴を活かし学ぶ機会もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報シートに一人ひとりの好みや希望、また認知症が進んで行く中で表情、行動を見ながら、変化をくみ取り出きるだけ希望に添った支援が出来るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を大切にし、職員や医師、訪問看護師の意見を確認し合い介護計画を作成している。計画作成後、本人や家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に長期・短期の目標を設定しその成果を情報シートに記入し、見直しを行い、変化があった時は家族や関係者と話し合い新たな計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があればできる限りの支援をしている。例えば墓参りに付き添ったことがあり、その後利用者さんの表情がとても明るくなった事例がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医と職員も信頼関係を持てる努力をしている。ホームと連携している地域の大福診療所で定期健診を受けている。特に体調の変化があれば家族に報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの支援を施設長、管理者、職員、医療機関で連携して支援している。家族や医療関係者、職員とも方針を共有するようにしている。書類による説明や契約書等の取り決めの準備を整えつつある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報の保護について職員で話し合い、日頃から言葉かけにも注意し、尊厳あるケアを目指している。利用者同士の対応にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのリズムを大切に体調や希望にあわせて墓参り等外出、入浴などしていただき、ゆったりと生活が送れるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は利用者と相談して決めている。手作りを大切にしている。食事の準備・片付けなどできることは手伝っていただいている。自助具なども利用して残存機能を活かす工夫もしている。職員と楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、木、金、の週3日入浴している。入浴を希望しない人も、生活のリズムのひとつとして楽しんでもらえるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできること、できないことを全体の会議で話し合っている。朝の新聞とりや里芋の皮むきなど個々の力を活かした役割がある。また生活歴をいかして、畑仕事や習字など楽しみ事の支援をしている。2人で協力してできる事をお願いして、利用者同士のコミュニケーションにも配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って散歩、買い物、図書館に行く等している。万博公園、海遊館、潮干狩り等、家族にも一緒に参加していただいている。花見、自治会の祭りなどにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関デッキテラスは鍵をかけずに自由に入出りが出来るようにしてある。門扉は来客時チャイムが鳴る仕組みになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡網は作成されている。近隣の駐車場の管理人が快く避難所に提供してもらっている。ホームとしての避難訓練をしている。	○	緊急時の対応のマニュアルを作成して、緊急時の対応の研修や消防署の協力を得て避難訓練をされることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は個別の用紙にメモし最後に日報に記入し、1日の水分の確保ができるようにしている。一人ひとりの状態に応じてとろみ食などの対応もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には大々なテレビが置かれ皆さんくつろいでおられる。料理の良い香りや、調理の音も聞こえ、生活感のある家庭的な雰囲気である。玄関を出るとデッキテラスがあり気候が良くなると居心地のよい空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本はフローリングではあるが、畳敷きのスペースもある。居室には使い慣れた道具が置かれ整頓され居心地良く過ごすようになっている。		